

京都府立医科大学の「いま」を伝える広報誌

◎特集

大学昇格100周年

— 記念対談／先人らの熱き使命感を後世へと —



京都府立医科大学の「いま」を伝える広報誌

COMMUNICATION MAGAZINE

The KPUM
TIMES

vol.
07

CONTENTS >>

03 | 新任管理職紹介

特集

05 | 大学昇格100周年

記念対談／先人らの熱き使命感を後世へと

08 | 創立150周年まであと1年!

11 | 最新研究紹介

12 | 卒業生からのメッセージ

足立真由さん

13 | 看護職のキャリア形成支援
の取り組み

14 | 「京都府立医科大学ローム
BNCTセンター」完成

15 | TOPICS

教育センター紹介

16 | 創立150周年記念事業
への寄附のお願い



大学正門に設置された金色のプレート
本学の旧学章をデザインしています。
この正門は創立140周年を記念して整備され
ました。

新任管理職紹介

今年度より副学長は昨年度までの3名体制から4名体制に増員いたしました。各副学長が「教育・施設整備計画」「研究」「地域医療」「総務」を主に担当し、それぞれの分野の課題解決に取り組みます。

新たに看護学科長に就任しました吾妻看護学科長とあわせて、新任の管理職を紹介します。



橋本 直哉 副学長 (教育・施設整備計画担当)

学生部長 脳神経機能再生外科学教授

2021年4月より副学長を拝命しました。教育および施設整備計画を担当いたします。

教育分野では2020年から学生部長として医学生さんたちを見守ってきましたが、我が国の教育改革に則り、医学教育も変革の最中にあることを実感しています。医学科・看護学科における6年・4年一貫教育、入試改革と高大接続、医学生の医行為とCBT-OSCEの国家試験化、シームレスな初期研修・専門研修への移行等の様々な課題を乗り越えるために、教育センターをはじめとした教職員の皆様のご協力を得ながら日々努力したいと考えています。

昨年来のコロナ急襲により、医学科・看護学科とも正規の医学教育改革以上のことを求められていることを肝に銘じます。施設整備計画も然り、近未来の素晴らしい附属病院と大学キャンパスを夢見て、教職員・医学生の協働による前進が理想です。創立150周年を迎える伝統の本学のために精進いたしますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。



佐和 貞治 副学長 (研究担当)

麻酔科学教授

令和3年4月1日付けで副学長(研究担当)、臨床研究推進センター長に就任いたしました。

臨床研究に関して本邦で発生してきた様々な問題から臨床研究法や臨床研究倫理指針の整備が行われてきました。

その一方で、大学として産学官連携を通じて臨床研究を推進することで社会の活性化や幸福につながる研究成果に繋げることの重要性が増しています。このように臨床研究に関するアクセルとブレーキの両方の仕組みを理解し整備していくことの重要性を感じております。業務遂行には、この部門で仕事されておられる多くの知識を持った職員の方々に多大なお力添えを頂いております。

皆様のお力添えのもとで、研究者が活力を発揮されて研究課題に取り組んでいける環境整備に寄与できればと思っております。どうぞよろしくお願い申し上げます。

新任管理職紹介



大辻 英吾 副学長 (地域医療担当)

医療センター長 消化器外科学教授

令和3年4月1日付けで副学長(地域医療担当)、医療センター長に就任いたしました。

「世界トップレベルの医学を地域へ」という本学の理念が示す通り、地域医療を充実させて地域住民の皆様が安心して毎日を過ごせるように高度な医療を提供することは、我々に与えられた重要な使命の一つです。また、地域医療の中核を担っている関係病院を多数有することは本学の特徴の一つでもあり、また、そのような関係病院で活躍する医師や看護師になることは、若い医療従事者や学生諸君にとっても魅力に感じるところです。関係病院が中心となっていく地域医療がさらに充実するように、大学と関係病院との連携や、各科の教室間の情報共有がスムーズにできるようにするのが、私の役目だと考えております。そのためには各科の教室だけでなく、看護部、臨床検査部、薬剤部、そして事務職の皆様方のお力が必要ですので、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。



加藤 則人 副学長 (総務担当)

図書館長、総合情報センター長 皮膚科学教授

総務担当の副学長は、教職員の大学における教育、研究、診療、地域貢献などの本来業務の遂行を支える幅広い分野が対象です。喫緊の課題として、十数年ぶりの学則及び諸規定の改定、働き方改革、デジタルトランスフォーメーション推進などに取り組んでいます。

図書館長としては、学生たちがディスカッションやディベートを行いながら課題をみつけ解決して行くアクティブラーニングの場、研究者にとっての情報交換や新たなアイデアの創出の場として、ラーニング・アカデミック・コモンズの構築に注力しています。

総合情報センター長としては、セキュリティ対策強化の推進とともに、様々な先進技術を活用するインフラとしての通信情報システムの整備・発展を目指します。

学生・教職員・府民への貢献を通じて、京都府立医大の発展に寄与できるよう力を尽くします。お力添えのほど、よろしくお願い申し上げます。



吾妻 知美 看護学科長

看護倫理・管理学教授

4月より看護学科長を拝命いたしました。平成26年に本学に看護倫理・管理学教授として就任し、学部、大学院教育の他に附属病院のキャリア教育にも携わっております。本学の卒業生が多数就職している附属病院で卒業生達の頼もしく成長した姿をみるのが、私の原動力になっています。看護学科のカリキュラムの特徴は、最先端の医学を実践している臨床医による専門基礎科目を学ぶ時間が他校よりも圧倒的に多いということです。そして、臨床実習ではそれらの知識を基に、世界トップレベルの医療を実践している諸先輩からの直接指導を受けているのですから、本学の学生は世界トップレベルの看護基礎教育を受けている看護学生であると言っても過言ではありません。

このような京都府立大学医学部看護学科の強みを生かして、皆さまのお力添えを頂きながら、看護実践能力が高い、逆境にくじけずレジリエンスの高い学生を輩出し、地域の医療に貢献していきたいと思っております。今後ともご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

*任期はいつでも2023年3月31日まで(2年間)

記念対談

先人らの熱き使命感を後世へと

— 埋もれていた新資料の発見も。語り継ぐ大学昇格の舞台裏 —

話し手

准教授 八木 聖弥

(医学生命倫理学/医史学)

聞き手

教授 奥田 司

(分子生化学/大学昇格100周年記念事業準備・実行委員会 委員長)



膨大な資料に向き合い 100年を精査

奥田 本日はよろしくお願ひいたします。私は立場上、すでに八木論文を拝読しておりまして、その内容の素晴らしさに感嘆いたしました。大学昇格のいきさつはある程度知っているつもりでしたが、この度、先生が府議会議事録や当時の新聞記事などを新たに掘り起こしてくださり、新しい事実を知ることができました。大学昇格というイベントが痛みの伴うできごとであったことが時代背景とともにイキイキと伝わってきて、おおいに感銘を受けた次第です。

八木 身に余るお言葉です。論文については、先生からご依頼を受けたのですが、お断りしようと思ひました。本学80年史や100年史にかなり詳しい記述がありますので、これ以上何を加えるべきなのか、

と。ただ、80年史のほうは大学昇格からは30年しか経ってなくて当事者をご健在であることから、当時として当たり前のことはあえて触れていないのではないかと気がいたしました。また100年史のほうも力作ではありますが、どういう資料に基づいているのかということが明確には書かれていないことがありましたので、当時の資料に一度立ち戻れば、何か新しいものが見えるのではないかと考えました。

奥田 どのように資料を集められたのですか。

八木 まずやはり本学の附属図書館の保存庫ですね。保管されている多くの文書の目録作り、写真撮影なども併行し、その過程で見つかった新たな昇格に関する文書を第一級資料としました。これは昨年、竹中中学長から依頼された調査研究の成果によるものです。ほかには明治・

大学昇格100周年記念式典において基調講演をされる八木聖弥先生は、100周年記念誌では論文を発表されます。山のような資料から大学昇格の知られざる一面が掘り起こされ、先人たちの苦勞や達成の喜びがイキイキと著わされた論文は、次なる100年に向けて使命感とモチベーションを高揚させる「素晴らしい内容」と評判。今回、記念誌発刊の前に、奥田司先生が、八木論文や大学昇格の舞台裏についてお話を聞きます。

大正時代を対象として京都府立京都学・歴彩館が保管している行政文書、当時の出来事をリアルタイムで記録している京都市新聞などの新聞記事、また開業医に頒布されていた京都医事衛生誌という月刊誌、府議会速記録などをほぼすべてチェックしました。すると80年史、100年史には載っていないことがたくさん出てきて、論文の枚数では書き切れないほどになりましたので、今後、何らかの形でご報告できればと考えています。

奥田 これからも続々読ませていただけたらと思うとワクワクします。それにしても大変な仕事量でしたね。

八木 文書の撮影だけでも何千枚でしたし、論文に生かせるのはごくわずかですが、歴彩館や本学に保管されている簿冊を丁寧に1冊1冊見て、大学昇格に関することが書かれていないかを確認する実に地道な作業でした。

特集 大学昇格100周年



八木准教授

奥田 そのなかでもこれは大発見だと思われたことを、ひとつご披露いただけますか。

八木 たとえば、大学を設置するのに、当時の文部省の方針として、本校の敷地とは別の場所に予科を作らなくてはいけないということがありました。そこで、この河原町キャンパス以外の土地を探し、今の花園学舎の場所を予科としたのですが、私はてっきり最初からその場所に決まっていたと思い込んでいたのですが、実のところ寺町鞍馬口や山科の日ノ岡などいろいろな候補地があって、条件等が折り合わなかったのか、最終的に花園の地に決まったということがわかりました。

奥田 ほ～、それは私も初耳です。

八木 これまではどこにも書かれていませんからね。ところで花園学舎といいますが、正式の地名は大將軍ですよね。当時の国鉄の花園駅に近かったのが花園学舎と呼んだのだろうか、などと想像を巡らせております。

世界恐慌やスペイン風邪など困難な時代に

奥田 本学が大学に昇格した大正10(1921)年はどのような年であったので

しょうか。

八木 社会的には、1918年に第一次世界大戦が終結して、戦後恐慌を迎えていました。新たなものを作るに際して資金調達もままならなかったと思います。もうひとつは1918年からあしかけ4年間流行したスペイン風邪ですね。ことに京都は、今もそうであるように修学旅行生や観光客が押し寄せるといことで、第二波の感染者数は東京より多かったといわれています。日本全体では45万人もの死者が出ました。大学令施行が1918年、本学においてはその年明け早々から昇格運動が始まっています。

奥田 大正デモクラシーの自由な空気の反面、暗く、表を歩くのもままならないような時代の昇格運動だったわけですね。しかし論文を読ませていただきますと、かなりの熱量で運動が展開されていたことがわかります。そのパワーはどこからきたのでしょうか。

八木 校友の方々の、「母校がなくなるのではないか」という大きな危機感が出発点で、それに学校側が動かされる構図だったと思います。大学令は、原敬内閣の高等

教育の拡張政策が背景にあり、医学教育に限って言いますと医育統一の動きがありました。当時は医師を育てるのに私立の各種学校や専門学校、帝国大学などの方法がありましたが、人命を扱うのにいろいろな教育システムがあるのはよくない、大学教育で統一してなされるべきであるという考え方。そこで母校の灯を消さないためにも大学に昇格し、立派な医師を育てるのだという高い志と決意・覚悟といったものがあつたと感じます。

奥田 先生は大学昇格を「創立150年の中で最も苦勞したイベント」と述べられていますね。

八木 はい。そう思っています。けれども熱量があつての苦勞でしたから苦を苦とは思わない、ということでしょう。それはやはり母校愛に尽きると思います。元来、本学は縦の連携も横の連携も密で、その結束力が実を結び、公立の大学として孤塁を守ることにもつながったのではないのでしょうか。大阪、名古屋でも公立で大学に昇格した例はありましたが、共に昭和6年に国立に移管されました。



大學昇格記念祝賀会

大学昇格への決意・志を 思い起そう

奥田 話は変わりますが、先生にとって
医史学の魅力とは何ですか？

八木 医療の技術は日進月歩ですが、
医療従事者が病に立ち向かう姿は時代
によって変わるものではありません。医の
心を追い、調べれば調べるほど、世界の
問題として命がいかに大切であるかが
明確となります。それは自分の命を大切に
することであり、周りの人達を大切にす
ること。医史学はその原点を教えてくれる
学問です。

奥田 なるほど。先生のお話を伺うよう
になって私が心から共感することは、実際
に臨床医学や基礎医学を学んだり研究を
すすめたりしてゆく上で、伝統やいきさつ
を知ること、そして現時点でのスタンダード
を学ぶだけではなく先人たちがいかに
苦闘してきたのかを知ることが、深く確か
な理解や高いモチベーションにつながる
ということです。

八木 その意味でも、当時の小川璣五郎

校長の言葉をご紹介したいと思います。
大学昇格の意義について先生は、ひとつ
は“研究の充実”であると。京都府立医学
専門学校は臨床医の養成では他に負け
ないけれど、研究面ではやはり遅れている
ところがあるので、これを充実、発展させ
たいと熱く語っておられます。もうひとつ
は“倫理面”。技術や知識だけではなく
医学者・医療人としての人徳を涵養する
ことが重要であると力説されています。
これは今に通ずる本学の理念そのもの
です。

奥田 大学昇格への決意を含めそうした
原点を、この100周年の記念の年に再確
認する必要があると痛感します。思えば、
大学昇格はスペイン風邪、そして今年の
100周年は新型コロナウイルス感染症
に直面。偶然にしても、我々は我々の使命
を再確認すべきなのだと感じます。

八木 おっしゃる通りだと思います。

奥田 ありがとうございます。10月23
日の大学昇格100周年記念式典での
基調講演も楽しみにしています。

八木 こちらこそありがとうございました。

講演では論文の一次資料をたくさんご覧
いただきますので、ぜひ当時の文字から
も、先人らの思いを感じ取っていただけれ
ばと思います。



奥田教授

大学昇格100周年記念式典 **10月23日開催**

新型コロナウイルス感染症 感染拡大防止のため、オンライン開催とし、大学関係者を中心に開催いたします。
式典の様子は、大学HP、広報誌等でお知らせいたします。

大学昇格100周年記念誌

対談冒頭でも話題に上がっていました記念誌では、八木先生の論文に加えて、学長、150周年記念事業実行
委員長、大学昇格100周年記念事業委員長、学友会理事による座談会や、学歌、学章にまつわるお話など、
本学の歴史を振り返ります。

記念誌は記念式典終了後、オンラインでも閲覧いただけるようにいたしますので、詳細が決まりましたら大
学HPでお知らせいたします。

創立150周年まであと1年！

創立150周年まであと1年！

2022年京都府立医科大学は、創立150周年を迎えます。
 いよいよ1年後に迫った創立150周年に向けた取り組みをご紹介します。



創立150周年記念事業実行委員会 委員長挨拶

明治維新の混乱冷めやらぬ明治5年(1872年)、京都府立医科大学は粟田口青蓮院に仮療病院として産声を上げました。まさに明治天皇が東京に移られ、京都府民の心にぽっかりと空いた穴を埋めるように京都府立医科大学は誕生しました。鳥羽・伏見の戦いで重傷を負った幕末藩士らを見事に治癒に導いた西洋医学を京都にそして日本に導入することが建学の精神です。その精神は「世界トップレベルの医学を地域へ」という現在の大学の理念に受け継がれています。

来年2022年、京都府立医科大学は150周年を迎えます。その歴史の大きな節目に何ができるのかを150周年記念事業・式典実行委員会としては5年前から検討をして参りました。基本的な考え方は、運営費交付金が充てにくく後回しにされがちな学生、若手医師・看護師のための教育環境整備を考えており、大学整備構想と共に進めて行く予定です。記念式典は2022年11月5日ですが、その前1週間を創立150周年ウィークとして様々な催しを企画しております。またそれ以外にも来年1年は感染状況が許せば創立150周年関係の集会等を企画していきたいと思っております。くしくも今年には大学令による大学昇格100周年にあたり、100年前の大正10年(1921年)に医学専門学校から念願の医科大学に昇格しました。この式典は10月

23日に予定しています。

公募で選ばれましたスローガン「継承し創造する未来」を掲げ、学友会会員、看護学科同窓会会員、大学教職員、そして学生が連帯して創立150周年の記念事業・式典を展開していきたいと思っておりますので、是非皆様のご協力・ご支援をよろしくお願い致します。



実行委員長 夜久 均
 (附属病院長・心臓血管外科学 教授)

創立150周年記念式典概要

2022年11月5日に国立京都国際会館にて創立150周年記念式典を開催します。
 同時期に関連イベントを開催し、全学で創立150周年を盛り上げます。

11月3日(木・祝)	オープンホスピタル、オープンキャンパス、トリアス祭、府民公開講座 会場:京都府立医科大学 河原町・広小路キャンパス周辺
11月4日(金)	国際シンポジウム 会場:京都府立 京都学・歴史館
11月5日(土)	創立150周年記念式典 会場:国立京都国際会館

*開催日時、会場等は現時点での予定です。新型コロナウイルス感染症拡大等の影響により、変更・中止になる場合があります。

創立150周年 記念事業

表彰式の様子をご紹介しました創立150周年記念事業。1年後に迫った創立150周年に向けていくつかのプロジェクトが始動しています。実施予定の事業を含め、150周年記念事業を紹介します。

1 学生の教育環境充実・図書館等の整備計画

学生の教育環境充実のため、附属図書館棟の整備にあわせて、棟内にラーニングcommonsやスキルスラボなどの学生施設を整備します。



2 150周年記念映画の製作「仮題：幕末のヒポクラテスたち」

本学の魅力を新たに創出し、本学への入学・入職を希望する学生の獲得等を図るため、本学を舞台にした歴史・青春映画の製作を行います。

3 記念出版プロジェクト

本学の医師、看護師、研究者のエピソードを取材し、書籍化・全国販売を行います。150周年を契機として、本学での実践を書籍として出版し、広く世の中に発信することによってブランド力の向上を目指します。現在、委託業者とともにインタビューの実施に向けて候補者・テーマ選びを進めており、書籍の出版は2022年10月頃を予定しています。

4 インタビュー企画 <学生提案>

学生提案によるインタビュー企画が2021年春にスタートしました。京都府立医科大学の在学生や教職員、卒業生らにインタビューを行い、大学や医療、社会のこれからのための考えを共有する場として、在学生が実施したインタビュー記事を150周年特設サイトに掲載します。新しいインタビュー記事は順次更新されますので、是非ご覧ください。



<https://150th.kpu-m.ac.jp/interview/>

5 創立150周年記念誌編纂

創立150周年の節目に本学のこれからの歩みを振り返り、得られた新たな知見やメッセージを将来の府立医大を担う若者たちに伝え、未来を構築することができる記念誌を編纂します。

創立150周年に向けた最新情報は、特設サイトにて随時お知らせいたします。
150周年記念事業に対する寄附については、裏表紙をご覧ください。

サイトQRコードはこちらから
<https://150th.kpu-m.ac.jp>



創立150周年まであと1年！

150周年記念グッズ第1弾 販売スタート

この度、創立150周年記念事業のさらなる普及と気運高揚を願って「記念グッズ」を作成しました。学友会会員、大学教職員、そして学生が一体となった150周年記念事業成功に向け、ご協力いただけましたら幸いです。

京都府立医科大学 150周年記念事業実行委員会



スクラブ

シンプルでスタイリッシュなデザインと3色のカラーバリエーションをご用意しました。使用している素材の「スクラブポプリン」はポリエステル65%、綿35%のダンガリーシャツのような肌触りと使い込むほど風合いの出る素材感のスクラブとなっています。左袖に「記念ロゴ」、右袖に「お名前」の刺繍を入れました。臨床現場でぜひご活用ください。



白衣

左袖に「記念ロゴ」、右袖に「お名前」の刺繍を入れ、150周年の誇りとともに臨床現場に臨むことができます。3種類のデザインをご用意しました。ホワイトとネイビーのツートンがおしゃれで耐久性に優れたスタイリッシュな白衣、シンプルなデザインでポリエステルと肌触りの良い綿の生地の白衣、機能性抜群のハーフコートは、吸汗性と速乾性が高い肌触りの良い高品質な生地となっております。



トートバッグ

バイカラーがアクセントのトートバッグです。綿100%のキャンパス地に「創立150周年記念ロゴ」をあしらったデザインで、容量も10ℓと、A4サイズのもので楽々入り、肩から下げることができる商品となっております。通勤・通学・お散歩・お買い物だけでなく、クリニカルクラークシップの学生さんにとっても、病院内で書類や本の持ち運びにもたいへん便利なトートバッグです。ぜひご利用ください。 価格：1,000円



ピンバッジ

150周年記念のロゴをピンバッジにしました。幅 26.25mm、縦 15mmで、アタッチメントはバタフライクラッチになっており、スーツや白衣につけることができます。かばんや帽子などにも、幅広く装着して、150周年記念の気運を高めていければと思います。 価格：1,000円

* 販売方法・問い合わせ先の案内

大学生協ホームページからお申込みください。
<https://kpu-m.u-coop.net/2021/03/150-1.html>

企画：京都府立医科大学 150周年記念事業実行委員会
 販売元：京都府立医科大学生活協同組合
 住所：京都府立医科大学内
 電話：075-251-5952(代表)

価格表 (価格・色)

品名	色		価格
スクラブ7000	ミッドナイトネイビー		5,800円(税込)
	ブラック		
	ワイン		
品名	色	素材	価格
シングル(男)1539	ホワイト	SPポプリン (ポリエステル90%・綿10%)	6,600円(税込)
シングル(女)2536	ネイビー		
シングル(男)1530	ホワイト	ポプリン (ポリエステル65%・綿35%)	5,600円(税込)
シングル(女)2530			
ハーフ(男)1520	ホワイト	メディサフェイス (ポリエステル85%・綿15%)	6,400円(税込)
ハーフ(女)2520			

ヒトの皮膚上の新型コロナウイルスの生存期間、消毒液の有効性

廣瀬 亮平(消化器内科学・感染病態学)

接触感染は皮膚を介した病原体の運搬および体内への侵入により成立します。そのためヒト皮膚表面上の病原体の安定性(生存時間)や消毒効果に関する情報は、接触感染のリスク評価や有効な感染制御方法の構築に極めて重要です。しかし、新型コロナウイルス(SARS-CoV-2)のような高病原性病原体を被験者の皮膚に塗布して研究を行う事は、被験者に危険が及ぶため施行が難しいのが現状です。我々は法医学解剖検体から採取した皮膚を用いた病原体安定性・消毒効果評価モデルを構築しました(図1)。この評価モデルが実際の被験者の皮膚上での安定性評価や消毒効果評価を正確に再現していることを実証した上で、我々はSARS-CoV-2の皮膚上での安定性および現在使用されている手指消毒薬の有効性を評価しました。

図2：ヒト皮膚表面におけるウイルス安定性

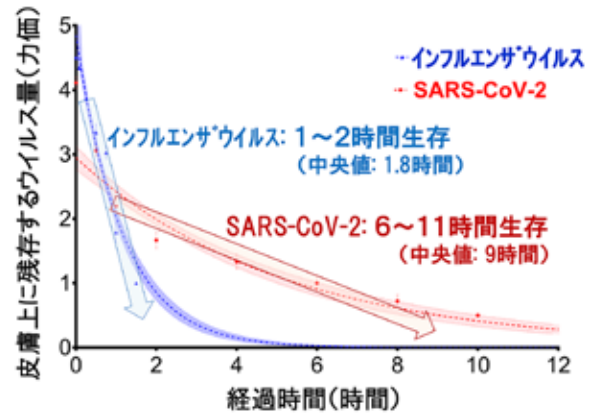
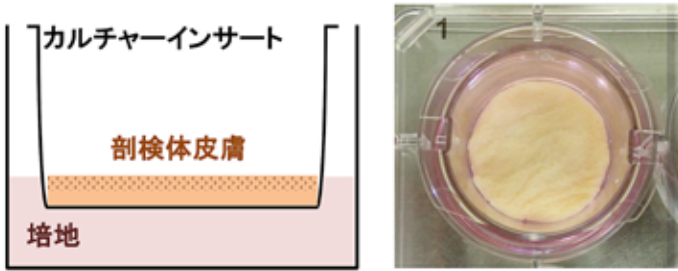


図1：剖検体の皮膚を用いた評価モデル



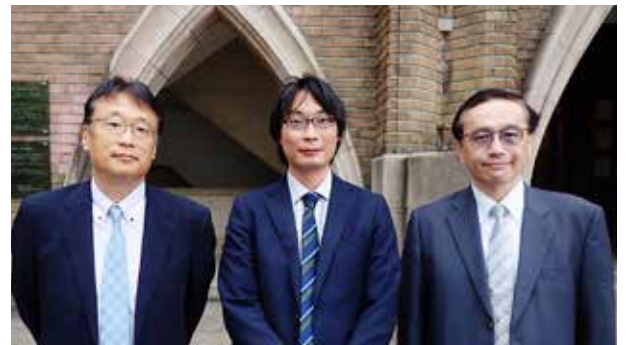
皮膚表面上の生存時間はステンレススチール・耐熱ガラス・ポリスチレン等の表面より大幅に短くなり、皮膚表面はウイルスの生存に不向きでした。またヒト皮膚表面上のSARS-CoV-2の生存時間はインフルエンザウイルスに比して大幅に長くなりました(図2)。ヒト皮膚表面上のSARS-CoV-2はWHOで推奨されている52w/w% (60v/v%)以上のエタノールで速やかに不活化され、その有効性が確認されました。また高濃度の1.0w/v%グルコン酸クロルヘキシジンや0.2w/v%塩化ベンザルコニウムも比較的有效でありエタノールの代替として使用できる可能性が示唆されています(表1)。

本研究成果はCOVID-19だけでなく今後発生しうる新興・再興感染症の制御にも大きく貢献します。我々はさらに研究を進め、皮膚表面上の病原体の生存時間を大幅に短縮する方法を確立しました(論文投稿中、近日公開予定)。この方法は手指衛生の前段階の接触感染予防手段として今後の感染制御のスタンダードになることが期待されます。

表1：皮膚表面上の新型コロナウイルスの消毒効果

	皮膚消毒によるウイルスの対数減少値*		
	消毒時間 5秒	消毒時間 15秒	消毒時間 60秒
80w/w% EA	> 4.00	> 4.00	> 4.00
60w/w% EA	> 4.00	> 4.00	> 4.00
40w/w% EA	> 4.00	> 4.00	> 4.00
20w/w% EA	0.53	0.61	0.81
70w/w% IPA	> 4.00	> 4.00	> 4.00
0.2w/v% CHG	2.19	2.31	2.42
1.0w/v% CHG	2.64	2.94	3.17
0.05w/v% BAC	2.03	2.19	2.36
0.2w/v% BAC	2.72	2.97	3.19
10w/v% PI	> 4.00	> 4.00	> 4.00

*対数減少値1は90%減少, 2は99%減少, 3は99.9%減少を意味する。
EA, エタノール; IPA, イソプロパノール; CHG, グルコン酸クロルヘキシジン;
BAC, 塩化ベンザルコニウム; PI, ポビドンヨード。



写真左から、中屋先生、廣瀬先生、伊藤先生

本研究結果掲載論文

- Hirose et al. Survival of SARS-CoV-2 and influenza virus on the human skin: Importance of hand hygiene in COVID-19. Clinical Infectious Diseases, 2020.
- Hirose et al. Reply to Gracely: Half-lives of SARS-CoV-2 and influenza virus on the human skin. Clinical Infectious Diseases, 2021.
- Hirose et al. Disinfectant effectiveness against SARS-CoV-2 and influenza viruses present on human skin: model-based evaluation. Clinical Microbiology and Infection, 2021.

研究資金

JST A-STEP 産学共同(育成型): with/postコロナにおける社会変革への寄与が期待される研究開発課題への支援, AMED 新興・再興感染症に対する革新的医薬品等開発推進研究事業, 公益社団法人武田科学振興財団 医学研究助成感染領域, 公益財団法人三菱財団 自然科学研究助成

卒業生からのメッセージ

「興味のあることにはどんどんチャレンジを
どんな経験も仕事の糧となります」

足立 真由さん



プロフィール

京都府福知山市出身、府立福知山高校を卒業後、京都府立医科大学医学部看護学科へ入学。3年生からは助産学を選択し、2018年に卒業した。卒業後は、地元である市立福知山市民病院に就職、看護部で助産師として活躍している。

助産師として地元の産科医療を支えたい

私が11歳のとき、奈良県で産婦さんのたらい回し事件があり、出産後に亡くなったというニュースに大きな衝撃を受けました。私は地元が福知山市です。京都府北部は南部に比べ医療機関が少なく、当時はドクターヘリもありませんでしたので、自分の身近にもこんな悲しい事が起きてしまうのではないかと、自分に何かできることはないだろうかと考え、以来、助産師になって地元の産科医療を支えたいと思うようになりました。

目指す道を歩み初めて4年。福知山市は本州で3番目に合計特殊出生率が高く、とてもうれしく思っています。また、2人目を産みに来られたり、「次もここで出産したい」と言っていたりすると、つくづく助産師冥利に尽きます。

充実の学生生活。アルバイトも貴重な経験に

私は早く助産師として働きたいと思っていましたので、4年間で看護師の資格も助産師の資格も取れる京都府立医科大学はとても魅力的でした。助産師コースに選考されるための勉強やその後の実習などなかなかハードな日々でしたが、卓球部に所属し、シフト制で4年間、民間の産婦人科病院でアルバイトもするという充実の学生生活でした。特にアルバイトでの経験は私にとっての転機となりました。それは、やむを得ず中絶手術を受け、「赤ちゃん、ごめんね」とずっと泣いておられる女性の手を握り続けたこと。何とか少しでも心の痛みをやわらげてあげたいと背中をさすり、懸命に言葉を紡ぎました。その方は帰られるとき「本当にありがとう」と何度も言われて。私は、その瞬間、女性が苦しい思いをしているときに近くにいて心に寄り添える存在になりたい、と助産師を目指す覚悟を決めた気がします。

お母さんと赤ちゃんへ心からのリスペクトを

現在は産婦人科病棟で働き、分娩の介助はもちろんのこと、ハイリスクの妊産婦さんの入院管理、出産前のアドバイスや産褥期のお母さんのケアと赤ちゃんのお世話、授乳など育児に関する指導など、出産に対してトータルにサポートしています。助産師をしていると時に辛い出来事にも直面しますが、かけがえのない人生の一コマを共に過ごすことは何にも代え難いやりがいです。

今、思うのは、命の現場で働く私たちには、大変なことも楽しいことも、どんな経験も決して無駄にはならないということ。私にとってはアルバイトや、メンタル面を鍛えてくれた卓球も大切な糧となっています。ぜひ、みなさんにもいろいろなジャンルにチャレンジしてほしい。そして助産師を目指す方へ、お母さんと赤ちゃんに関わらせていただく中で貴重な経験と学びを享受していることへの感謝を忘れず、お母さんと赤ちゃんへのリスペクトを持ち続けてほしいと願っています。

※このインタビューはオンラインにより実施しました。



看護職のキャリア形成支援の取り組み

看護実践キャリア開発センター

看護実践キャリア開発センターは、社会のニーズに対応した看護実践能力の向上と看護職の生涯を通じたキャリア形成支援のために、教育プログラムの開発、教育指導者の養成、教育環境の充実を図り、看護職の人材育成に寄与することを目的としています。平成21年の開設以来、医学部看護学科、附属病院看護部、附属北部医療センター看護部が協働し、人事交流、教育プログラムの開発と運営、看護研究の推進など、看護職の知識と技術の向上、キャリア形成のためにさまざまな活動を行ってきました。今後はさらに京都府の看護職の皆様にご貢献するセンターとして、地域の一人ひとりの暮らしと人生を支えるための知識と技術を備える専門職業人の育成に寄与する活動を推進していきます。

Withコロナ新時代の潜在看護師・保健師リカレント教育プログラム

令和2年度 文部科学省 就職・転職支援のための大学リカレント教育推進事業に採択され、新規事業として「withコロナ新時代の潜在保健師・看護師リカレント教育プログラム」を10月に開講します。withコロナの新時代において、府内の潜在保健師・看護師、転職希望者を対象に、病院施設および地域社会における感染対策に関する最新の知識・技術を修得し、安心して復職・転職できるためのリカレント教育を展開し、保健医療福祉の質向上に資する専門職の確実な再就職につなげることを目的としています。感染症対策および現在就業している受講生にも対応するため、オンラインおよびオンデマンド授業、夕刻の開講などを採り入れ、対面授業による実践的な演習、就職を想定した医療機関、行政機関での実習を展開するハイブリッド形式のプログラムを提供します。

特定行為に係る看護師の研修制度

昨年度からの取り組みとして、「特定行為に係る看護師の研修制度」の運営事務局を担当し、e-ラーニング、スクーリング、演習、実習等の調整、受講生のサポートを行っております。特定行為研修とは、看護師が手順書により特定行為を行う場合に特に必要とされる実践的な理解力、思考力及び判断力並びに高度かつ専門的な知識及び技能の向上を図るための研修です。研修を修了すると、特定領域の医療行為を手順書に基づいて行うことが出来るようになり、必要な医療やケアがタイムリーに効率よく患者様に届けられることが期待されます。本学は、令和2年度から特定行為研修の研修機関に指定されており、昨年度は「外科術後病棟管理領域」の研修を4名が修了しました。今年度からは新たに「術中麻酔管理領域」が加わり、両領域で5名の受講生が研修を受けています。修了後は、本学附属病院をはじめ、それぞれの所属施設に戻り、活躍して頂けることを期待しています。



受講生の声

私たち特定行為研修2期生5名は、現在eラーニングやスクーリングを行いながら、OSCE・臨地実習に向けて学びを深めています。医師からは講義だけでなく、実技演習（エコーや動脈穿刺など）の指導も受けています。来春には、研修中の学びを自施設に還元し、看護の質の向上につなげていきたいと思っています。

「京都府立医科大学ローム BNCT センター」完成

「京都府立医科大学ロームBNCTセンター」完成

ローム株式会社からがん治療研究のため「京都府立医科大学ロームBNCTセンター」の建物及び機器を御寄付いただきました。同センターは次世代のがん治療であるBNCT (Boron Neutron Capture Therapy: ホウ素中性子捕捉療法) 研究に活用させていただきます。



寄附施設

① 建物

名称：京都府立医科大学ロームBNCTセンター
規模 地上2階一部地下1階
面積 約1,500㎡

② 機器

中性子照射装置 一式

※BNCTとは？

ホウ素を取り込んだがん細胞に中性子を照射する放射がん治療。ホウ素と中性子の反応を利用し、正常細胞にあまり損傷を与えずがん細胞のみを選択的に破壊する治療

共同研究講座：次世代ホウ素中性子捕捉療法研究講座

福島SiC応用技研株式会社と共同で、中性子捕捉療法(BNCT)の臨床応用、がん治療方法の多様化を目指し基礎・臨床研究を行っています。

照射した中性子量を知るために計算シミュレーションと共に、リアルタイムで測定可能なオンライン中性子モニターの開発や、臨床使用のためのコミッショニング方法の確立を進めています。また世界初の体幹部腫瘍の治療実現に向けて体幹へのBNCTによる影響とその評価方法を研究しています。

新規ホウ素薬剤開発の観点から京都薬科大学とも共同研究を行っており、標的となり得る腫瘍細胞株を選別し、担癌マウスの作成および福島SiC応用技研株式会社での中性子照射実験も行っていきます。同時に腫瘍のホウ素薬剤取込促進自体を目的とした基礎研究にも着手しています。



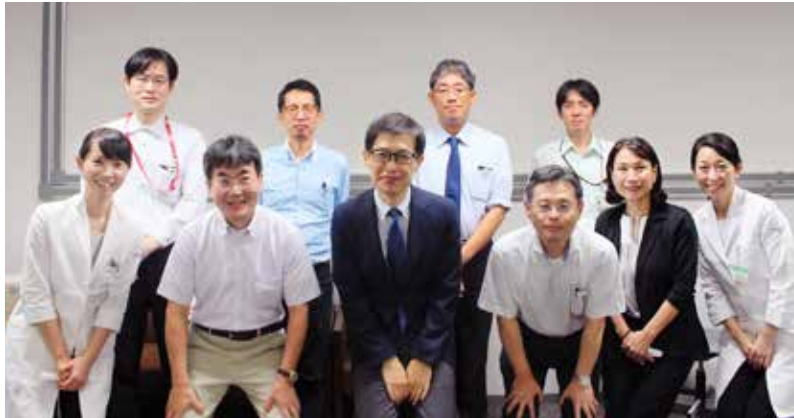
次世代ホウ素中性子捕捉療法研究講座

山崎 秀哉 教授



教育センター紹介

教育センターは今年度大幅に改組され、専任教員や看護学科教員を含む新しい体制で活動を開始しました。より良い医療人を輩出するため、様々な教育課題に取り組んでまいりますので、ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。



教育センター長 天谷 文昌 (疼痛・緩和医療学 教授)

専任教員 金子 美子 (教育センター・講師)
間嶋 紗織 (教育センター・学内講師)

兼任教員 丹羽 文俊 (総合医療・医学教育学)
松原 慎 (総合医療・医学教育学)
栞原 康通 (分子生化学)
曾和 義広 (分子標的予防医学)
野村 真 (神経発生生物学)
吉井 健悟 (生命基礎数理学)
原田 清美 (看護学科)
橋元 春美 (保健管理センター)

本学で行われる教育活動や学生の様子、大きく変革を迎えつつある医学教育全般について情報発信をしております。特に、この1,2年は、臨床実習72週基準化(4年生後半から6年生前半の2年弱)に合わせて、共用試験CBT(知識を問う全国統一のオンライン試験)とOSCE(技能・態度を問う面接型試験)の公的化が決定され、臨床実習前に実質的な「もう一つの国家試験」が設定される見込みです。この大きな変革に合わせて、あるべき医療人の根幹を育む教養教育の充実をはかり、本学の歴史ある医学教育をさらにブラッシュアップしてまいります。

コロナ禍でも、遅れをとることなく学びをすすめています。今年度前半の学生生活の一コマをご紹介します。

早期体験実習I(1年生対象) 6/8-11

早期体験実習(Early Exposure)は、医学部に入学したばかりの学生が実際に医療の現場を体験することにより、医学生



としての自覚をもち、医師への動機づけを目的とした臨床医学実習のひとつで、2019年度より実施しています。春の実習Iは附属病院の外来患者さんをエスコート、病院各部署の業務の一端を経験・見学等の体験型プログラムでしたが、病院内への立ち入り制限もあることから、代替実習として病院各部門業務に関するオンデマンド学習とオンラインでのグループディスカッションを行いました。今年度は入学時のオリエンテーション以後、1年生は一度も登校できずオンラインでの講義が続いている状況でしたため、河原町キャンパスに半数ずつ登校し、少人数班でキャンパスの紹介・竹中学長との懇談を行いました。入学以後、本学学生としての自覚醸成もままならない状況でしたが、1年生のさわやかな笑顔が見られ大変嬉しいひと時でした。オンライン学習ではコメディカル業務を中心に病院機能の理解を深めました。学生同士の議論、発表は期待以上のものがあり、教養課程履修中の1年生にとっては、まさに医学生らしい学びの機会となりました。

地域医療実習(5年生) 8/30-9/3

例年5年生を対象に実施していた地域医療実習は、京都府北部、中部の地域医療を担う病院の方々にご協力いただき、1週間の日程でその土地の人々に触れ、そこで



行われている地域医療を肌身で感じられるカリキュラムとなっていますが、昨年度はオンデマンド実習、今年度はそれに加え、Small group discussionを含む参加型オンライン実習を行いました。医学科、看護科学生合わせて160名あまりが7病院のグループに分かれ、①地域の特色、各病院の特色と地域における役割や機能、②地域の医療ニーズと医療連携の現状、在宅医療の現状について、③地域における看護師の役割や多職種連携の3テーマについてグループディスカッションを行い、プロダクトを作成、発表を行いました。各病院の院長・部長の先生がたにも大変ご多忙の中討論にご参加頂き、大変有意義なお話を伺い、学生からの質問も多数受けて頂きました。オンライン形式ながら、学生間で活発な討議もみられ、京都府医療には欠かすことのできない地域医療の重要性や課題を理解し、地域を深く知ることができた実りある実習となりました。

創立 150 周年記念事業への寄附のお願い

京都府立医科大学では創立150周年記念事業への寄附を募集しております。



1 150周年記念事業基金への寄附、 2 ふるさと納税(個人のみ)での寄附をお選びいただけます。

1 京都府立医科大学 創立150周年 記念事業基金への寄附

① 寄附申出書(所定様式)をご記入いただき、事務局総務課150周年寄附担当あてに送付願います。

※下記「お問い合わせ先」へメール・FAX・郵送にてお送りください。

※寄附申出書の様式は、下記URLからダウンロードできます。



<https://www.kpu-m.ac.jp/doc/about/150kifu.html>

② 寄附申出書を受付後、振込口座情報等をメールにてお知らせします。

※受付完了メールを受信後、振込手続きをお願いします。

※振込人名義は寄附者名とし、振込手数料はご負担願います。

③ 振込確認後、寄附金受領書を送付いたします。

※この寄附金は、財務大臣が指定する寄附金(昭和40年大蔵省(財務省)告示第154号による指定)に該当するため、所得税法第78条第2項第2号及び法人税法第37条第3項第2号の規定により税制上の優遇措置を受けることが可能です。

なお、京都府民、京都市民の方は、個人住民税(京都府民税、京都市民税)につきましても 優遇措置を受けることが可能です。

2 ふるさと納税制度での寄附

専用支払用紙による振込

① 「京都府電子申請システム」への入力、または京都府大学政策課あてに電話・FAX・メールにてお申込みください。

※「郵便局からの払込み」または「金融機関からの払込み」のどちらかをお選びください。

※京都府電子申請システムへは下記URLからリンクしています。



<https://www.kpu-m.ac.jp/doc/about/furusatonouzei.html>

※京都府文化スポーツ部大学政策課の連絡先

TEL:075-414-4526 / FAX:075-414-4187

メール:daisei@pref.kyoto.lg.jp

② 専用支払用紙が郵送されます。

③ 入金確認後、受領証明書が送付されます。

クレジットカードでの支払(インターネットから)

① F-REGI寄附支払サイトからお申込みください。

※利用いただけるのはVISA、MasterCard、JCB、AmericanExpress、DinersClubのマークがマークがついたクレジットカードです。

※F-REGIへは下記URLからリンクしています。



<http://www.pref.kyoto.jp/fu-daigaku/news/furusato.html>

② 入金確認後、受領証明書が送付されます。

顕彰制度

寄附金額に応じて、寄附者の皆様に感謝の気持ちを込めて、寄附者顕彰制度を設けています。

◎ 銘板への掲示 大学に設置予定の銘板に御芳名を掲示させていただきます(希望により掲載しないことも可能です)。

◎ 感謝状の贈呈

寄附・ふるさと納税に関するお問い合わせ

京都府立医科大学創立150周年記念事業実行委員会事務局

(京都府立医科大学事務局総務課内)

〒602-8566 京都市上京区河原町通広小路上ル梶井町465

TEL 075-251-5210 FAX 075-211-7093 email soumu@koto.kpu-m.ac.jp

創立150周年記念事業
特設サイト(大学HP)
<https://150th.kpu-m.ac.jp/>

